

書評という仕事

書評は本には不可欠のものですが、ともすると内輪褒めになりがちです。対象とする本の意味と価値を歴史的かつ空間的に広い位置から見きわめて、それを質の高い文章で書く。英米独仏伊西等の書評はそのように書かれてきました。そうした書評を日本に根づかせるべくたゆまぬ努力を続けてきた代表的なお一人が豊崎由美さんです。豊崎さんのお話を聞いて、本をどう読むかを考える契機にしてください。

コーディネーター：高遠弘美 商学部教授

日時：10月5日（土）4時限
15：20 ～ 17：00

会場：明治大学和泉キャンパス
和泉図書館ホール

講師：豊崎 由美氏
(フリーライター, 書評家)

【講師プロフィール】

愛知県出身。東洋大学文学部印度哲学科卒業。文学、演劇、スポーツ、競馬などについて確かな批評眼に裏打ちされた筋の通った書評や批評を書く。近年は鮭児文学賞の選考を任せ、意欲的な作品に光を当てる活動が続いている。著書に、『そんなに読んで、どうするの?』『どれだけ読めば、気がすむの?』『正直書評。』『ニッポンの書評』『ガタスタ屋の矜持』ほか多数。共著に『文学賞メッタ斬り!』シリーズ、『百年の誤読』『石原慎太郎を読んでみた』など。

予約不要：学部生の受講可

※学外の方も受講可能です。事前にお電話ください。

【教養デザイン研究科 TEL:03-5300-1529】